

伊豆における観光型MaaS 実証実験について

2019年3月12日

東京急行電鉄株式会社

1.伊豆の現状と課題

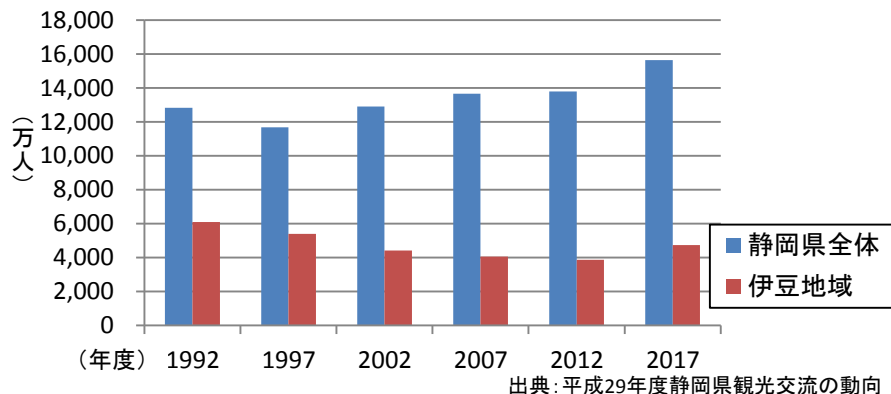
- ✓ 多くの観光資源が集まる魅力的な地区。2012年から観光客数も再び微増
- ✓ 高齢化率は約3割、人口減も進む。観光客・住民の2次交通維持が課題

■主な観光施設

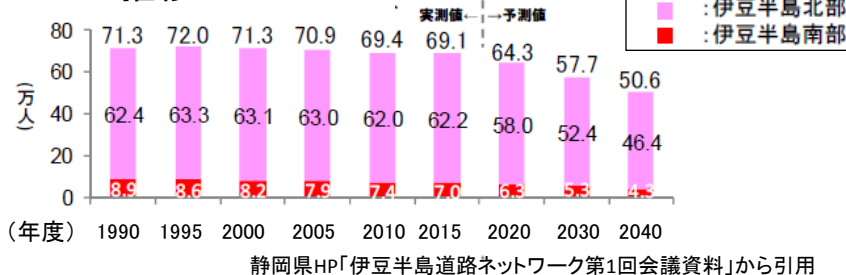


静岡県HP「伊豆半島道路ネットワーク第1回会議資料」から引用

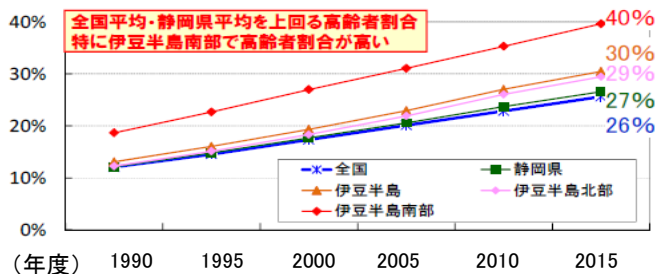
■観光交流客数の推移



■人口の推移



■高齢者割合の推移



1990~2010：国勢調査、2015：住民基本台帳
静岡県HP「伊豆半島道路ネットワーク第1回会議資料」から引用

1.伊豆の現状と課題

- ✓ 鉄道5路線、バス390系統、タクシー数社がありながら、来訪手段は「8割が車」
- ✓ 2次交通を利用した周遊促進が、交通事業者含めた地元経済にとっての課題

■主な公共交通網

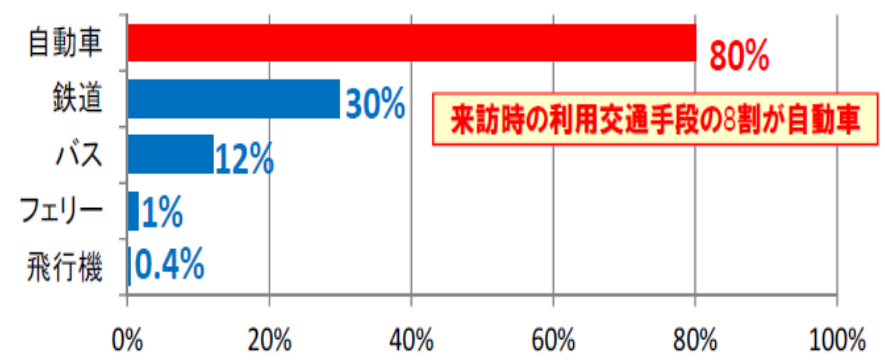


■主な交通事業者

鉄道	JR東日本、JR東海、伊豆急行、伊豆箱根鉄道	5路線
バス	東海自動車グループ、伊豆箱根バスグループ	390系統
タクシー	伊豆急東海タクシー、伊豆箱根タクシー等	約250台

■伊豆半島来訪時の利用交通手段

(移動に利用した交通手段をすべて回答(複数回答可))



2.観光型MaaSで目指すもの

【観光における伊豆の2次交通の課題】

- 空港や駅からの2次交通が分かりにくい（バス・タクシー等）
- 2次交通の継続性（人手不足、本数減少等）
- 2次交通や目的地を包含したアプリがない



【現状のままだと伊豆の将来は・・・】

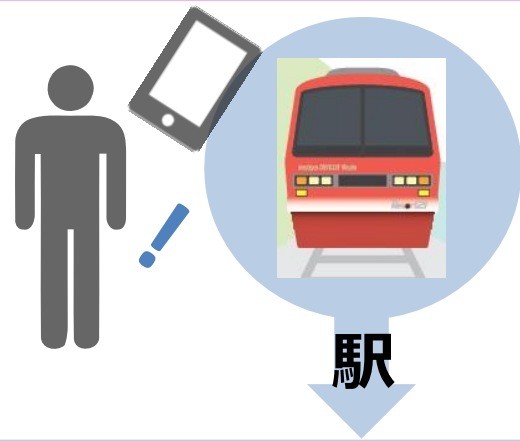
- 利用者及び2次交通従事者減少による、地域交通としての危機
- 2次交通の不便さにより、長期滞在の観光客が減少
- ICTを活用した観光地づくりが進まず、旧来型の観光地として埋没



【こうした課題解決のために】

**空港や駅から目的地（観光地、宿泊地）までの2次交通をスマホで予約・決済し、
旅行者にシームレスな移動を提供する「観光型MaaS」を推進することで、
伊豆をICTを活用した観光の先進地域へ！**

3.伊豆における観光型MaaS・実証実験イメージ



路線バス

オンデマンド
交通

レンタカー

レンタ
サイクル

2次交通予約決済アプリ

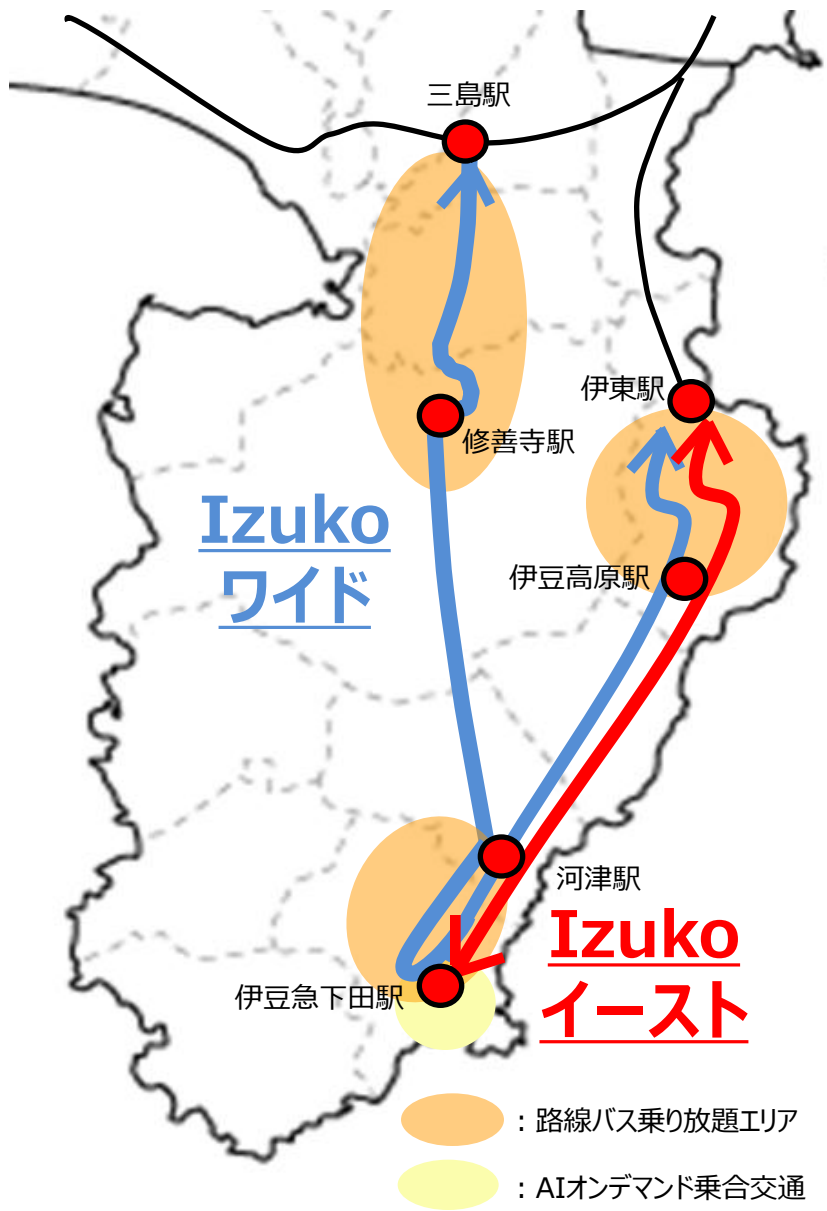
観光施設


宿泊施設

事業主体

観光支援

4.実証実験のエリア、期間



- 専用アプリ
アプリ名：Izuko
二か国語対応（日、英）

- デジタルフリーパス商品：有効期間2日間
【Izukoイースト】伊豆急（伊東⇔下田）往復
【Izukoワイド】三島⇒修善寺⇒河津⇒下田⇒伊東
- 実験期間：合計6か月間
PHASE①：本年4月1日～6月30日
PHASE②：本年9月1日～11月30日
- 予約・決済できる交通・観光施設
 - ・鉄道（フリーパス利用時決済）
 - ・路線バス（フリーパス利用時決済）
 - ・AIオンデマンド乗合交通（配車）
 - ・レンタサイクル、レンタカー（予約）
 - ・観光5施設（決済）
- デジタルマップ
飲食施設や携帯充電箇所などの情報を、多言語で記載。快適な伊豆旅を支援。

5.推進体制（実行委員会形式）

伊豆における観光型MaaS実証実験実行委員会

【会長】（一社）美しい伊豆創造センター

【委員長】 東京急行電鉄（株）、（株）ジェイアール東日本企画


【副委員長】 東日本旅客鉄道（株）、楽天（株）、伊豆急行（株）

【委員】
東海自動車(株)、伊豆箱根鉄道(株)、伊豆箱根バス(株)、(株)伊豆クルーズ、
（一社）伊豆半島創造研究所、静岡県タクシー協会伊豆支部、
JR東日本横浜支社、JR東日本レンタリース(株)、
静岡県庁 交通基盤部・文化観光部

各種協力

参加団体

資金





補助金

協賛金

事務局業務委託 ↓

↑ 事業・収支報告

実行委員会事務局
(株) ジェイアール東日本企画

事務局運営事業（事業計画、収支作成、進捗管理、実行委員会運営等）

- ①
調査事業
- ②
商品・アプリ開発事業
- ③
広報宣伝事業
- ④
受入体制整備事業
- ⑤
次世代二次交通
実証実験事業

活動期間：2019年1月17日～12月31日（予定）